

十二瀉はアサザでいっぱい!

地元では古阿賀^{ふるあが}とも呼ばれて来ました。阿賀野川^{あがの}が蛇行した跡^{あと}の三日月湖です。

昔は、瀉の幅が約87m (48間^{けん}) もありました。そのため対岸の耕地へ渡るには「綱舟^{つなぶね}」が使われました。綱舟とは、幅1.5~2.0m、長さ6~7mの箱型の舟です。対岸まで張った綱^{たぐ}を手繰りながら往來しました。

しかし、1937 (昭和12) 年7月、突風で舟が転覆し、2名の犠牲者が出ました。この事故により、集落では翌年に各戸がそれぞれ木材を持ち寄って、この場所に橋を架けました。その後、農道として整備されました。

現在の瀉は約6haに半減しましたが、アサザ、ガガブタ、ヒシ等の浮葉植物を見ることができます。特にアサザは県内

最大の群落で、夏は黄色の花で湖面が埋め尽くされます。このアサザ、ガガブタは全国的に絶滅の恐れがあり、県の保護する重要な野生生物を記載した『レッドデータブックにいがた』の絶滅危惧種に指定されています。



アサザの花

北区では、「特色ある区づくり事業」の1つとして「十二瀉環境保全事業」を実施し、生物調査や案内板、観察用デッキを設置するなど水辺の保護活用に取り組んでいます。

